

かたね

ふ



黒羽集

(二)

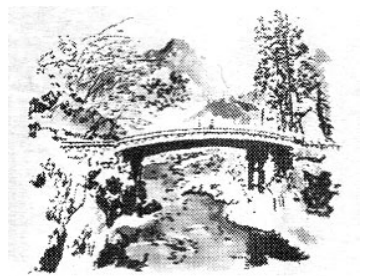
佐藤喜仙

光揺るる尾花のありて多摩の山

天泣や秋風寂ぶる百草園

櫨紅葉光を曳いて翁の碑

水昏む色鯉の背に萩しだれ



謂れある古梅の根方曼殊沙華

手賀沼の波の燦然秋深し

蘆の花湖抱くごとく揺れにけり

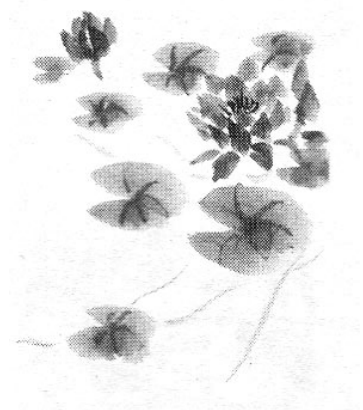
幽邃や柿色づきて水の張り

湖渡る風使いきる蘆の叢

金木犀香りを湖にはなちけり

かやね集

白選句集



冬麗

松本周二

かひつぶり報せたきことあるやうな

山茶花や樹の大きさに花むしろ

轟きて出水平野に鶴万羽

鳶の笛冬の岬の誕生寺

断崖に冬波寄せて鳶ひとつ

ジヨギングの影の早さや朝時雨

冬の月

川井素山

火酒重ね憂さはらひけり冬の月

冬晴れの下町巡り江戸切子

クリスマス家常茶飯の独居かな

菰巻きや二人で締むる塩辛声

煙立つ苅田に餌はむ鷺一羽

針の穴スツト通して冬の夜



撫子集

主宰選



大ぶりの鱈さばかれて鍋地獄

本郷宗祥

冬晴や庭木にとまる鳥一羽

風に耐へ小さく咲きし冬薔薇

窓の外はらはらはらと枯葉舞ふ

長堤をそぞろに歩む小春かな

退院の足で三年日記買ふ

小池清司

ジーパンともんぺが並ぶ障子貼り

冬の鴟梢で夕日に染まりけり

星屑も鏤めぬたる聖樹かな

湯豆腐もコースに入れて嵯峨野旅

掲示板の貼り紙さらふ野分かな

小林美登里

糶の声次はいつの日冬の海

雪嶺の麓の畑に菜を抜きぬ

水煙にふれんばかりの冬銀河

一陣の風の形に枯芒

枝の先力貯めたる冬芽かな

岡野安雅

踊口ふと見上ぐれば枇杷の花

炬燵無きマンシヨンの猫日当たりに

夕刊を開きみかんの皮を剥く

ひつそりと知人の家や近松忌

鴨二匹水面にゆれて冬の朝

田島昭久

菊花展戦国の姫の立ち姿

鉢植の枯菊となり括られる

冬の朝吐く息あらしジョガーかな

紅白の山茶花色を競い合ひ

那須野集

主宰選



烈風の去りて落葉を掃く日和

丸山酔宵子

石路咲くや雨脚柔く芭蕉句碑

吉田啓悟

暖炉に火窓打つ雪のしんしんと

好日の紅葉の先に伸びる雲

河豚鍋にむかし話の盛んなり

城跡の濠の寒鯉うごかざる

紺碧の師走を走るファイフティーン

横綱の大技決まり朴落葉

外に雪部屋に暖炉の薪はぜる

復元の出島の町やコート脱ぐ

冬ざれや破顔崩さぬ羅漢像

米田文彦

いづこからか吹きたまる銀杏落葉かな

柳田皓一

賀状書く米寿の人の白き眉

人急ぎ落葉ころがる冬の暮

足早に辿る山道初時雨

あたらしき手袋はや失せにけり

大屋根に唐風の鴟尾冬の雨

さらさらと落葉の駆ける月夜かな

流れゆるき水路に沿って枯葉踏む

山茶花のぼつりぼつりと朱に咲ける

時雨きて里の家々窓灯

郡山真帆

冬晴やぱつかり有りぬ昼の月

小春日の波間に遊ぶかもめどり
小春日やうたた寝によき縁の先

吉田博行

枯菊の焚けば寄り来る子供の声

靴下に期待を込めてサンタ待つ

冬日和サッカーボールの庭にあり

不景気にプレゼント小さきクリスマス

一日が常と変はらぬ大晦日

木枯や酒の友また一人逝く

ありがたや障子畳無き年の暮

金田和代

河豚鍋の箸忙しく忘年会

後藤克彦

風呂吹きや銀婚式の小旅行

流水に先争ふごと落葉流る

寒雷の秩父の山より武蔵野へ

具だくさん三晩続きのけんちん汁

銀杏黄葉風来るたびに舞ひ落ちる

暖冬に飾り忘れしクリスマス

年の瀬や枯山水を見に行かむ

枯枝を踏む音たのし園児どち

大根のラインダンスのごと干され

青木英林

一陽来復の賀状を映しテレビ終ゆ

長島清志

クリスマスの聖火がともる大聖堂

人込みになぜか虚しき年の暮

お待ちどうと鍋焼うどん卓に来る

飲み屋にも活気戻りし師走かな

寒月の皆既月食といふドラマ

月冴えてやがて欠け初む天のシヨウ

寄鍋に賑はいてをり年忘れ

裏木戸に門かけて冬籠もる

松岡利秋

盆栽の五葉の松や冬うらら

佐々木薫

冬めくや検査数値に変はりなし

神事果て蕎麦屋でからだ温めけり

行く年や目標遠く酒くらふ

冬の雨遺言状を作りけり

冬の日の始発で京の冬の陽へ

石路咲いて冬日吸い取る黄色かな

里山の土を踏みしめ梅探す

成り年の柚子ふんだんに朝湯かな

裏山の木々もやうやう冬紅葉

松本信子

かなたから微かな光冬銀河

田中きみ子

店と店行きつ戻りつ年用意

大焚火メラメラ昇り竜のごと

枯蔦が窓をふさぎぬ廃墟かな

誰植えし母校に茶の木咲きてをり

枯草の刈られ地ならし始まりぬ

霜柱朝日を受けてダイヤめく

大焚火滝を逆さに流すかに

品漬の赤蕪の朱に手も染まる

明けやらぬ車中うたた寝冬帽子

坂上じゅん

曇天に吸いこまれゐる冬桜

辻 紅葉

病院を出でて踏めるは落葉道

土産には燻りガツコの漬物に

若い親児より楽しむクリスマス

下山道バス停までの枯野人

冬の雨止みて夕陽の日本橋

暮れなづむ社の庭にみみづ鳴く

神無月お百度踏みし老婆かな

ペン胼胝の小さくなりけり冬の空